



図書館長

**森 啓至**

## 「AI時代における 新たな図書館像」



今年度より四日市看護医療大学図書館長に就任いたしました森 啓至です。研究者、教育者として33年間歩んできたところで図書館長という大役を任せさせていただくこととなり、責任をひしひしと感じております。さて、以下の挨拶文をお読みください。

「教職員、学生の皆さん、私は森 啓至と申します。4月より四日市看護医療大学の図書館長として就任いたしました。さて、図書館という場所は、この大学コミュニティにとって重要な資源です。知識、研究、学修の拠点として、私たちは図書館を活用し、共有の知識の宝庫として使っていくでしょう。私と図書館スタッフの目標は、この図書館をさらに進化させ、大学の使命を支え、学術研究の成果を促進することです。図書館スタッフ一同協力し、図書館がより魅力的で大学の発展に貢献できる資源となるよう努めていきます。」

これは chatGPT と呼ばれる人工知能 (AI) が作成した文章です。不自然さは残りますが、文脈的に十分通じる文章ではないでしょうか。私たちは、自宅に居ながらスマートフォンやタブレットで電子書籍を読み、AI が必要な情報を調べ答えてくれる時代にいます。このような

時代に、本学の図書館はどのような役割を果たすことができるのか、ここ数年間の利用実績を確認しながら考えてみました。コロナ禍による行動制限の始まった2020年は、予想通り来館者数、貸出冊数ともに激減しました。しかし、行動制限が解除され、対面授業が中心となった大学に戻った現在でも、利用者は減少したままです。遠隔講義や在宅勤務の経験から、調べ物にインターネットを使う機会が増えたからかもしれません。その一方で月別利用者数を見ると、定期試験、臨地実習、国家試験の前には、来館者数、貸出冊数ともに他の月より増加していることがわかります。つまり、単に調べ物のために図書館を利用するだけでなく、試験や隣地実習前の学修の場としても利用する学生が一定数いるのです。

電子書籍やAIの進歩で従来型の図書館を利用する機会は減っていますが、まず我々が取り組むべき事として、紙媒体での学術図書や電子書籍コンテンツを増やすことはもちろん、さらに学生にとって学修しやすいラーニング・commonsを提供する必要があると思われます。

今後も、学生、教職員、学外利用者様のニーズに合う図書館になることを、図書館スタッフ共に目指していく所存です。皆様からの温かいご支援のほどよろしく願いいたします。

## 令和5年度 入学式

4月2日(日)に令和5年度の入学式を挙行了いたしました。  
当日は、本学関係者に加え、森四日市市長をはじめとした多くの来賓の方にご参列いただきました。森四日市市長からの祝辞、喜岡理事長からの祝辞、柴田学長からの式辞を聞く新入生のまなざしは希望に満ちており、新生活への期待に胸を膨らませている様子が見受けられました。  
式典の最後には看護医療学部・看護学研究科それぞれの代表者により宣誓が行われ、医療従事者を志す事への決意が述べられました。  
最後になりますが、新入生の皆様のご入学を教職員一同心より歓迎いたします。



## 学友会 新入生歓迎会

4月5日(水)、学友会主催の新入生歓迎会が行われました。  
看護学科と臨床検査学科が別教室で行い、クラブ・サークル紹介では二つの教室をZoomで繋いで行いました。ほぼ初対面でなかなか話づらいアイスブレイクタイムには、先輩方が話すきっかけを作り、終始和やかなムードでした。  
楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいましたが、新入生にとって不安も多い大学生活に向けて良いスタートを切れたのではないかと思います。



### 新任教員からのメッセージ

**准教授 久留島 実姫**

令和5年4月に着任いたしました。  
専門は基礎看護学で、看護実践に必要な知識・技術の基盤となる1~2年次の科目を担当しています。COVID19の影響により、対面授業ができないという経験を経て、再び対面での授業が可能となった今、これまで以上に学生とエネルギーの交換ができ、より効果的な学びに繋がる授業を日々模索しています。そのひとつとして、学内で利用可能なコンテンツを活用したICT教育による反転授業を取り入れ、授業中は協同学修などの能動的な学修活動を目指しています。今後もこのような授業の工夫を重ね、的確な判断に基づいた看護を実践できる看護師の育成を目指して取り組んで参ります。何卒よろしくお願い致します。

**講師 廣田 直美**

着任から半年以上が経ちました。当初の本学の印象は「気持ちのよい挨拶ができる学生が多い!」で、今も変わりありません。これまでの演習や実習では、課題に真摯に取り組む学生の姿、グループメンバーへの心遣い、対象者との積極的な関わりを目にし、とても頼もしく感じています。看護職は、様々な背景をもった人々を対象としています。これらの人々がその人らしい暮らしを継続するため看護職に必要なことは人間性と専門的知識・技術だと思います。挨拶は、人を尊重する気持ちの表れです。人間性をすでに兼ね備えた学生が専門的知識・技術を十分に吸収できる環境づくりを学生・学生に関わる皆様と共に努めていきたいと考えています。

**助教 林 香純**

令和5年4月より本学に着任し、基礎看護領域を担当しております。  
8月下旬から9月上旬にかけて、基礎看護学実習Iを病院で行うことができました。1年生の初めての实習ということで、緊張もありつつも、看護師の方々の看護実践を実際に見学させて頂き、患者さんのことを思って看護をすることの大切さや、自分たちの今後の成長に向けた課題を得られる実習になりました。演習では、技術だけを行うのではなく、患者さんのことを考えた、看護実践を行い、グループワークで意見交換を行い、学びを深める機会にもなっています。実習や演習を通して、学生たちが看護師に向けて成長していく姿がみられ、今後益々成長していくことを感じています。

## 学友会主催「親睦体育大会」

6月3日(土)、学友会主催の親睦体育大会が開催されました。  
熱中症対策も万全な中行われ、それぞれ楽しそうに体を動かしていました。じゃんけん列車など軽い運動から始まり、障害物競争、ドッジボールがそれぞれチーム対抗で行われました。臨床検査学科の先生も参加し、学生たちと楽しんでいました。  
今年度は一年生の参加率が高く、先輩たちや同級生とともに仲が深まったことでしょう。



## クラブ紹介

**災害医療サークル**

看護学科3年 大葉 有梨沙

私たち災害医療サークルは「もしも」の時に備えてまずは自分を守るように、そして医療を学ぶ者として災害時に役立つ知識を楽しく身につけることを目標に活動しています。  
主な活動内容は勉強会や避難所で使用する簡易ベッドや簡易トイレの組み立て、学内で行われる防災訓練では災害にまつわる展示を行いました。  
コロナ感染対策のため今まではあまり活動を行っていませんでしたが、新しく1年生も加わり、今後は活動の幅を広げていきたいと考えています。

**釣り部**

臨床検査学科2年 深谷 亮太郎

僕たち釣り部は臨床検査学科の2年で、男子9人、女子4人の計13人が所属しているサークルです。主な活動内容として、霞ヶ浦や鍋田など近場で実際に釣りをしたり、夏休みには手持ち花火をしたり楽しく活動しています。釣り上げた魚は、持って帰りた方は、持って帰って家で調理してもらっても大丈夫です!活動日については、話し合いで決めています。器具などはこちらで準備するため、釣り初心者の方でも気軽にいつでも参加できます。




## 臨床検査学科 細胞検査士コース

臨床検査学科4年 伊佐 樹

細胞検査士コースでは実際に病院などで細胞検査士として活躍されている先生方に講義や実習を通してご指導いただいています。実際に症例を見たり、症例を通して疾患ごとの詳細や細胞所見などを教えていただいています。講義が無い時間は、過去の試験問題や問題集を使って一次試験の筆記および写真問題、二次試験のスクリーニングの対策を行っています。就職活動や国家試験対策などと並行で行うため大変ですが、細胞検査士の資格取得に向け、コース生全員で力を合わせて頑張っています。



## 実習について

### 感染対策に留意しながら行っている臨地実習の現在の状況

看護学科実習委員会 委員長 三好 陽子

臨地実習は、講義や演習で学んだ知識・技術を看護実践の場面で活用し、看護の実践力を身に付けることを目的として行われる大変重要な体験学習です。看護の現場で、看護の対象者である患者さんとそのご家族、さらに地域住民の皆さんなどと、直接かかわりを持ちます。

臨地実習は、基礎看護学実習を終えた後、3年次の9月～翌年3月の計6か月間にわたり、成人看護学（急性・慢性）、小児看護学、母性看護学、老年看護学、在宅看護学、精神看護学といったさまざまな看護分野の実習で、それぞれの専門的な看護を学びます。

しかし、2019年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の出現以降、5類感染症に移行した現在も、実習施設においては予断を許さない状況が続いております。臨地実習においては、学生、大学、実習施設それぞれが、COVID-19について正しく理解した上で、適切な感染対策を実施し、感染およびその拡大リスクの低減に可能な限り努め、臨地実習での学生の学びに支障をきたさないように、各担当教員は日々尽力しております。学生達もマスクを装着し、健康管理に留意しながら元気に頑張っております。



### 実習における「身だしなみ」の重要性

臨床検査学科実習委員会 委員長 千原 猛

実習には学内実習と臨地実習があります。文字どおり学内実習は学校の中で行われる実習です。学内だからと言ってなあなあで済ませるのではなく、常に臨地実習のつもりで取り組んでほしいと思っています。いずれの実習を受講する場合でも、ここでもう一度考えていただきたいことは「身だしなみ」です。皆さんは、いずれ医療従事者や専門職の役割を期待されている学生です。そこで大切なのは、周りの人が皆さんを見てどう感じるかということです。「身だしなみ」とは、「外見だけを整えるのではなく身の回りについての心がけであり、周囲に不快感を与えないように頭髮や衣服を整えること、言葉や態度をきちんとすること」とされています。

なぜ「身だしなみ」が重要なのか、まず感染対策であることは周知の通りです。さらに第一印象がよくなり、患者さんはもちろんのことスタッフとの安心感、信頼感にも繋がり、コミュニケーション形成に欠かせないものであると思います。すぐに改善することはなかなか難しいかもしれませんが、まずは学内実習から、そして日々の積み重ねだと思います。昨今、時代の変化とともに「身だしなみ」は常識の範囲内で個人の判断に任されていることが多いかと思いますが、「身だしなみ」についてもう一度考えてみてください。



### 基礎看護学実習Ⅰを終えて

看護学科 1年 鈴木 そら

基礎看護学実習Ⅰでは、病院の構造や機能、看護師の役割や多職種連携の重要性など、臨地実習ならではの様々な学びや経験をさせていただきました。

病棟見学では、患者さんの立場に立ってコミュニケーションをとり、生活背景や思いを尊重すること、患者さんのニーズに応じた看護をすることが重要であると学びました。このことから、確かな知識や技術だけではなく、患者さんの状態に合わせて臨機応変に対応する能力を身につける必要があると感じました。

実習を通して看護への興味や関心がより一層高まりました。今後は、基礎看護学実習Ⅰで学んだことを活かし、臨床現場で患者さんの個性に合わせた適切な援助ができるよう勉学に励んでいきたいと思っています。

### 臨床検査学科臨地実習体験記

臨床検査学科 3年 山中 詩織

約3か月の臨地実習では講義や学内実習で学べない多くのことを経験することが出来ました。私たちが目指す臨床検査技師という職業を実際に体験し、自分達が持つ知識や技術を試されることで何が足りないのか気付かされる期間でもあったと感じています。検査のほか、患者さんへの接遇、そして一人一人に寄り添い何が出来るのか、コミュニケーションの大切さを学びました。

また、健診センターや検査センターにも行かせて頂き、それぞれ違った現場の雰囲気や体験できたことは貴重な経験となりました。とても緊張した臨地実習でしたが、技師の先生方がとても優しく接して下さったので楽しく実習することが出来ました。

これから国家試験という大きな壁が待っていますが、教えて頂いたことを糧にして挑んでいきたいです。

## 令和5年度 長江拓子奨学金授与式

7月5日(水)、長江拓子奨学金授与式を行いました。

長江拓子先生は本学で教鞭を取られた後、顧問としてお力添えをいただきました。先生から頂戴した寄付金を基に創設されたこの奨学金制度は、本学の学生がより一層学修意欲を高め、看護専門職業人となる自己の目標を明確にすることにより、人材の育成に資することを目的としています。

学業成績並びに本学及び社会への貢献などから審査し、看護学科2年生1名が本年度の奨学生として選出されました。授与式では、柴田学長から賞状と奨学金が授与され、二村学科長から激励のお言葉を頂戴しました。今後、この奨学金を受給された方の、更なるご活躍を期待します。

なお「河野啓子賞」表彰式は、令和6年2月に実施される予定です。



## 海外研修



ダニエル・カーク 教授

本学では、平成20年3月にアメリカのカリフォルニア州立大学と学術交流協定を締結以降、同校を訪れて海外研修を実施してきました。今年の海外研修には3つの「初めて」がありました。1つめはコロナ後初めての海外研修であったということ、2つめは初めて臨床検査学科の学生がプログラムに参加したということ、そして3つめは初めて1週間だけの研修となったことです。13名の学生と2名の引率の教員は午前には英語の学修をし、午後は医療従事者の講義を楽しみました。学生たちは自由時間をロングビーチの探索に費やし、研修中にはバスに乗ってディズニーランドへ行くこともできました。限られた時間の中で、海外の生活文化を肌で感じるとともに、様々な経験を通して成長できる有意義な研修となりました。



臨床検査学科 2年 江藤 愛莉

8月6日から13日まで1週間、2年生13名でカリフォルニアに滞在し、充実した日々を過ごしました。午前には医療英語を学び、午後は施設訪問や自由時間はディズニーなどへ行きました。現地でMRIに携わる技師や看護師として働く方のお話を聞き、医療の違いや共通点を知り、多くの知識を得ました。

また、コロナが落ち着き、この研修を通じて多くの人と交流を深めることができたこと、先生方や関係者の方々、両親の支えがあって研修に行くことができたことに感謝し、研修で得られた知識や経験を糧にし、自身の将来像に繋げていきたいです。



## ☕ オープンキャンパス 📝

今年度のオープンキャンパスは、6月10日(土)、7月22日(土)、8月7日(月)に行われました。今年も学科ごとに定員を設け、事前予約制での開催となりました。

当日は、両学科の会場ともに学長の挨拶から始まり、四日市市健康福祉部様から本学の支援制度などをお話いただき、入試広報室より大学・学科の紹介や入試の説明を行いました。その他に模擬講義や実習体験、個別相談などにも参加いただきました。個別相談や先輩と話そうコーナーでは、入試や奨学金の相談だけでなく、実際の学生生活などを熱心に質問する参加者でにぎわっていました。

参加された方からは「先生や先輩がとても丁寧に優しく教えてくれ、不安が解消された」「看護師や臨床検査技師についてより理解を深めることができ、参加してよかった」という声が聞かれました。

オープンキャンパスを通じて本学の魅力を感じていただき、今後の進路や目標を決めるきっかけになればと思います。



## 教育後援会 事務局より

6月3日(土)

令和5年度 教育後援会役員会・総会

6月3日(土) 本学会場にて教育後援会役員会を開催いたしました。

今年度は加藤会長を含め留任3名、新任4名の父母等様に役員をお引き受けいただくことになりました。この場を借りて御礼申し上げます。当日は、有意義な役員会となったと思います。また、総会については、書面決議で実施させていただき、承認の可否に加え貴重なご意見も数多く頂戴し、本学へ非常に大きな関心や期待を寄せていただいていることが伺えました。

今年度も教育後援会事務局として、父母等の皆様と力を合わせて邁進してまいりますので、何卒お力添えの程よろしくお願い申し上げます。



## 高大連携について

令和5年度の暁高校との高大連携事業は、3年生27名(看護医療コース選択者+希望者)が7月6日に来校して大学講座体験を実施しました。看護学科では『医療現場に必要なコミュニケーション』をテーマに、会話の際に相槌の有無によってどのように感じ方が違うのかを、臨床検査学科では超音波検査、血液像検査、採血体験など、さまざまな臨床検査技師の仕事を体験していただきました。参加された生徒の皆さんは、大学の教員や在学生の先輩たちに指導を受け、緊張しながらも、楽しそうに学んでいる様子が見受けられました。

この高大連携事業では、高校生の方に大学での学びを経験することを通じて、看護医療系の学びを深め、進路選択の幅を広げる機会となることを目的としています。暁高校から本学あるいは医療系養成校進学への意識向上につながるよう、今後も高大連携事業を推進していきたいと考えます。



10月7日(土)

令和5年度 父母等懇談会

10月7日(土) 教育後援会が主催する父母等懇談会を開催しました。

秋晴れにも恵まれ、臨床検査学科41名、看護学科58名と多くの父母等様にご参加いただきました。父母等懇談会は本学会則第4条1項に謳われている「大学と父母等との連絡会の実施」に相当する行事として開学以来継続しており、今年度も全体説明会とアドバイザー教員による個人面談を実施しました。その全体説明会では、両学科長より教育の取組や学生生活の現状について説明があり、看護学科では卒業生より現在の勤務状況や当時の学生生活についての体験報告をお話することができました。また、教育後援会を代表して加藤会長より、建学の精神である「人間たれ」をはじめ、大学と父母等の交流についても熱心にお話を頂きました。何よりも皆様のご協力により、本会を無事に開催できたことをうれしく思います。今後とも教育推進及び学生支援を遂行できるよう、教職員一同精進してまいります。温かなご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## ● 令和5年度 社会貢献活動

### みえアカデミックセミナー 【担当】大西 信行 教授



「みえアカデミックセミナー」は、三重県生涯学習センターにより開催されている県内にあるすべての大学・短期大学・高等専門学校等の高等専門機関全15校が参加する公開セミナーです。今年度は、8月4日(金)に「語らいと健康」と題し、看護学科大西信行教授による講演が行われました。講演の中で、「健康生成論」を取り入れた治療プログラムとして、大西教授が実際に入院患者を対象に行ったグループトークの事例を紹介されました。まとめとして、この研究成果を基に今後は保健・医療・福祉の現場でも活用されることに期待したいとの意見を以って締めくくられました。

### 公開講座 【担当】ダニエル・カーク 教授



9月2日(土)に令和5年度公開講座を実施しました。今回は本学で基礎英語や医療英語を教えているカーク教授が「教えて！カーク先生 日本のええトコ おもしろトコ～菟野に住むアメリカ人教授の徒然なる話～」をタイトルに講演を行いました。参加者からは、「実体験に基づいた話で分かりやすかった。」「違う文化を知ることは大切だと思います。」とのご感想を頂戴しました。今後も、地域に開かれた大学として地域貢献活動を継続してまいります。

### 地域健康教室 【担当】高崎 昭彦 教授



10月28日(土)に大学祭と同時開催で、令和5年度地域健康教室を実施しました。今回は高崎昭彦臨床検査学科長が「あなたも検査を受けたいかな？！健康診断活用術」をタイトルに講演を行いました。参加者からは、「新しい学びがあった。」「話が分かりやすく参考になった。」とのご感想を頂戴しました。また、教室終了後には臨床検査学科の学生が実施する血管年齢や骨量の測定に参加いただく方もおり、健康や検査への関心を高める機会になったと思われまます。

## 臨床検査学科 国家試験対策

臨床検査学科では1期生が令和6年2月14日に施行される「第70回臨床検査技師国家試験」に向け、毎日勉強に取り組んでいます。現在、最終学年に対して行っている国家試験対策は3つあります。1.「模擬試験」の実施。4月～7月は学内模擬試験を実施し、回を重ねるたびに難易度が上がる問題に取り組ましました。後学期は学外模擬試験として、全8回の全国模擬試験を行っています。模擬試験を通して、自身の学修の進捗状況や苦手科目が把握できています。2.「特別演習」の実施。必修講義がない週3日、科目毎に50問問題に取り組んでいます。知識のインプットと問題を解くことでアウトプットを繰り返しています。初見の問題との出会いなど、「こんな感じでの出題もあるのか!」と新たな発見もあります。3.「アドバイザー面談」の実施。一人で悩んでしまうこともあります。アドバイザーと学修方法など相談しながら、国家試験に向けて1歩1歩進んでいます。



四日市看護医療大学 看護医療学部 看護学科  
2022年度(2023年3月)卒業生

## 就職・進路状況

### 1. 就職・進路状況

	項目	合計
就職	希望者	105名
	決定者	102名
	うち四日市市内の医療機関等	40名

\*進学希望・決定者 1名



### 2. 就職先

都道府県	医療機関等
三重県	市立四日市病院、大仲さつき病院、三重大学医学部附属病院、伊勢赤十字病院、鈴鹿回生病院、松阪中央総合病院、津生協病院、三重県立総合医療センター、桑名市総合医療センター、済生会松阪総合病院、松阪市、小山田記念温泉病院、JA三重厚生連、四日市羽津医療センター、富田浜病院、四日市市、みたき総合病院、藤田医科大学七栗記念病院、小塚産婦人科、れんか訪問看護ステーション、もりえい病院
愛知県	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一・第二病院、名古屋掖済会病院、藤田医科大学病院、名古屋徳洲会総合病院、藤田医科大学ばんたね病院、名古屋市立大学病院、国立長寿医療研究センター、名古屋セントラル病院、名古屋大学医学部附属病院、JA愛知厚生連海南病院、総合大雄会病院、常滑市民病院
岐阜県	中部国際医療センター、松波総合病院
静岡県	浜松医療センター
長野県	相澤病院、長野県立木曾病院
大阪府・兵庫県	大阪医科薬科大学病院、兵庫医科大学病院
東京都・神奈川県	東京医科大学病院、川崎市立川崎病院

### 3. 国家試験合格率

【看護師】 94.3% (受験者 106名 / 合格者 100名) 【保健師】 98.0% (受験者 50名 / 合格者 49名)  
【助産師】 100% (受験者 9名 / 合格者 9名)

### 4. 全体状況

2022年度卒業生の就職進路として、就職決定者が102名で、就職率97.1%で高い数値を維持しています。就職に関しては、4月から採用試験等が開始され、9月までには、80%以上の就職内定の連絡を頂いている状況です。学生生活として、研究演習、統合実習、国家試験対策等に取り組んでいます。学生が主体的に就職活動できるよう、キャリア支援委員会・アドバイザー教員を中心に全学的な体制でサポートを継続しています。



10月28日(土)に大学祭を開催しました。本学として3年ぶりの大学祭であり、特に初参加となる臨床検査学科では前例がなく手探りの中での準備となりました。過去の資料を頼りにしながら、実行委員

全員が協力しあい開催まで至ることができました。当日は看護体験や臨床検査体験のほか、地域健康教室、教職員イベント、キッチンカー、ビンゴ大会など学生、来場者の方がともに楽しめるイベントを用意しました。その中でもビンゴ大会には多くの方が参加され、大きなぎわいを見せました。久々の開催とは思えない活気のある大学祭になりました。



学祭実行委員  
看護学科2年 川合 希望

新型コロナウイルスの影響で本学の大学祭に参加することがなかったため、不安もありましたが、とても楽しんでいただけている様子が色々な場面で見ることができ、非常に嬉しかったです。ご来場してくださった皆様ありがとうございました!

学祭実行委員  
臨床検査学科2年 中森 匠紀

今年は準備期間が短く、また大学祭へのノウハウもなかったため1からの準備となりました。今年の目標は来年へ向けて経験を得る事とし、準備を進めました。今回、大学祭は成功し経験も得られたので、目標を達成できてホッとしています。ですが、もう来年へ向けての準備は始まっており、来年はもっと大きく楽しく派手にいこうと思っていますので楽しみにしてください。

## 大学院に臨床検査学専攻開設

かねてより、設置認可申請を行っていた大学院臨床検査学専攻が、令和5年9月4日文部科学大臣より認可され、令和6年4月、既設の看護学専攻に加え、開設されることとなりました。本専攻では生命の尊厳と深い人間理解に基づいた臨床検査実践能力を培い、医療科学分野でリーダーシップを担う高度専門職業人ならびに高度な専門知識を備えた教育・研究者を養成します。これに伴い、研究科名称を看護医療学研究科へ変更します。

### 危機管理体制

災害対策チーム長 多次 淳一郎

本学では2022年度から災害対策チームを中心に、防災・減災活動に計画的に取り組んでいます。2022年度には災害対応マニュアルの見直しと改訂を行い、第2版を作成しました。2023年度はこのマニュアルに沿って、①4月の前学期オリエンテーション時に防災・減災のガイダンスを行い、また②8月の防災訓練では、避難訓練に加えて、災害対策本部の設置訓練を行いました。これらの取り組みを評価し、2024年度以降も訓練や環境整備に取り組んでいきます。



### 学生相談室

担当 臨床心理士 加藤 美紀 先生

学生相談室では、一人ひとりの悩みや問題について一緒に考え、乗り越えられるように解決の糸口を探っていきます。学業面のストレス、人間関係や恋愛、家族の問題、将来の不安など、どんな些細なことでもかまいません。一人で悩まないで相談に来てください。

#### 【学生相談室開室日】

予約優先（1回45分）

- 毎週水曜日 / 12:00 ~ 17:00
- 毎週金曜日 / 13:00 ~ 16:30

予約方法は大学ホームページにてご確認ください。

学生相談室  
予約フォーム

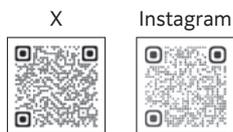


### ホームページリニューアル

より使いやすく快適にご利用いただけるように、ホームページをリニューアルいたしました。今後も内容の充実を図るとともに、みなさまのお役に立つ情報を発信してまいります。

### 大学公式SNSアカウント

授業風景や学内の日常を紹介しています。  
ご興味のある方はぜひフォローをお願いいたします。



## 本年度学位記授与式

令和6年3月10日(日) 10時～

都ホテル四日市において挙行する予定です。